

夫婦間の家事分担と意思決定の認知差に関する日韓比較研究

金 恩美・本村 汎

A Comparison of Perceived Shares in the Spouses' Housework and Decision Making between Korea and Japan

KIM EUNMI and HIROSHI MOTOMURA

1. 問題の提起および目的

現代の家族関係の核心を成している夫婦関係に関する研究は、役割関係、勢力構造、結婚満足度、コミュニケーションなどの次元で行われてきた。このような研究は、量の面ではかなり蓄積されているにもかかわらず、質の面ではいくつかの方法論的な問題が依然として残されている。その中でもここでは最も重要であると思われる次の二つの点を指摘したい。

その一つは、調査研究の場合の対象者の問題である。日本と韓国におけるこれまでの夫婦関係に関する調査研究は、その大部分が妻を対象にして調査しており、夫を対象とした研究は少なく、ましては夫婦単位で調査した研究は極めて少ない。例えば、これまで行われた結婚満足度に関する研究結果を見ると、妻よりも夫の結婚満足度が高い(Choi, 1986; 186)ことが指摘されているが、それは夫あるいは妻の一方からのみの応答資料によるものであり、それをもって夫婦の客観的な満足感とするには無理がある。

もう一つの問題点は、概念の定義と指標化の問題である。これまでの研究では、一般的に夫婦間の役割関係は家事分担度で測定し、勢力構造は最終的な意思決定を誰かするかを調査した研究が大部分である。

しかしながら、夫婦間の意思決定の領域に注目した場合、そこには、夫婦のどちらかが特に重視する領域が存在したり、あるいは夫婦のどちらかが特に熟知している領域が存在して、それらの「重要度」と「熟知度」の変数が意思決定に影響を与えていると考えられる。このように考えると、夫婦間で「誰が決定するか」ということに影響を与えるのは、勢力構造の研究で重視される「勢力」の概念だけでなく、前述したように、その領域についての「役割熟知度」のように思われる。しかし、本研

究では、十分な資料がないために、テータ分析においてはそれを割愛し、意思決定の従来の研究方法を使って分析していくこととする。

以上のような二つの問題点を考慮して、本研究では現代の韓国と日本の夫婦関係のあり方を明らかにするための一環として、夫と妻の両者から得た資料に基づいて、一つの結婚生活の中で実際に行われている家事分担と意思決定に関する夫と妻の認知の違いを調べたい。

現実に行われている夫婦の家事分担や意思決定に対する夫婦間の「認知」の違いは、夫婦間の葛藤や問題の原因になることもあるので、各領域別に認知の違いを調べることは、夫婦問題の予防策を模索するための基礎資料としても寄与できると思われる。

2. 研究方法および手続き

(1) 標本の抽出

標本の抽出としては、韓国の場合は、大邱市の七つの区域の中、三つの区域から一つずつの中学校を任意に選んで、その三つの中学校の生徒たちの両親を今度の調査の対象者とした。A区域の男子中学校(S校)に400部、B区域の女子中学校(K校)に300部、C区域の女子中学校(J校)に300部、計1000部を配部して856部が回数されたが、夫婦ともに有効だった調査表は694部であった。

日本の場合は、母集団を大阪府と限定し、具体的には枚方市立の一つの中学校に900部、豊中市立の一つの中学校に80部、計980部配部して502部が回数された。あとは地縁に基づく有意選択法によって対象になる170夫婦を選出した。したがって、配布された総計1320部の調査表の中、分析に有効なのは766部であった。

しかし、本研究では、教育期と言っても、中・高生の子供を一人以上持ち、両方とも初婚で、現在同居している、都市地域の夫婦と限定したために、具体的な分析対

表1 研究対象者の一般的属性

	韓 国		日 本	
	夫	妻	夫	妻
年齢				
34歳以下	•	6 (2.6)	2 (0.8)	6 (2.4)
35～39歳	19 (8.0)	93 (39.6)	31 (12.6)	79 (32.0)
40～44歳	134 (57.0)	131 (55.7)	138 (55.9)	133 (53.9)
45～49歳	73 (31.1)	5 (2.1)	66 (26.7)	29 (11.7)
50歳以上	9 (3.9)	•	10 (4.0)	•
MEAN	43.63	39.72	43.16	40.70
SD	2.97	2.52	3.46	3.17
学歴				
小 (～6年)	32 (13.6)	50 (21.3)	•	1 (0.4)
中 (～9年)	48 (20.4)	79 (33.6)	12 (4.9)	24 (9.7)
高 (～12年)	100 (42.5)	78 (33.2)	108 (43.7)	115 (46.5)
2年制大学	10 (4.3)	6 (2.6)	18 (7.3)	69 (27.9)
4年制大学	38 (15.2)	20 (8.5)	97 (39.3)	38 (15.4)
大学院以上	4 (1.7)	1 (0.4)	12 (4.8)	•
無応答	3 (1.3)	1 (0.4)	•	•
MEAN	11.38	10.06	13.87	12.79
SD	3.22	2.99	2.47	1.95
職業形態				
無・専業主婦	6 (2.6)	131 (55.7)	1 (0.4)	92 (37.2)
PART TIME	1 (0.4)	7 (3.0)	1 (0.4)	99 (40.1)
FULL TIME	85 (36.2)	29 (12.3)	205 (83.0)	26 (10.5)
自営業 (手伝い)	73 (31.1)	27 (11.5)	27 (10.9)	11 (4.4)
内職・自由業	67 (28.5)	33 (14.0)	2 (0.8)	15 (6.1)
その他・無応答	3 (1.3)	8 (3.4)	11 (4.4)	4 (1.6)
職業種類				
無・専業主婦	6 (2.6)	131 (55.7)	1 (0.4)	92 (37.2)
非熟練職	10 (4.3)	23 (9.8)	10 (4.0)	45 (18.2)
熟練職	46 (19.6)	9 (3.8)	22 (8.9)	7 (2.8)
販売職	7 (3.0)	8 (3.4)	17 (6.9)	22 (8.9)
自営職	61 (26.0)	30 (12.8)	15 (6.1)	4 (1.6)
サービス職	10 (4.3)	5 (2.1)	3 (1.2)	7 (2.8)
事務職	28 (11.9)	3 (1.3)	53 (21.5)	27 (10.9)
教師	9 (3.8)	5 (2.1)	1 (0.4)	6 (2.4)
管理職	34 (14.5)	2 (0.9)	82 (33.2)	3 (1.2)
専門・技術職	12 (5.1)	5 (2.1)	35 (14.2)	19 (7.7)
無応答	12 (5.1)	14 (6.0)	9 (3.6)	13 (5.3)
生活水準				
下	11 (4.7)	17 (7.2)	9 (3.6)	13 (5.3)
中の下	73 (31.1)	60 (25.5)	55 (22.3)	45 (18.2)
中の中	105 (44.7)	120 (51.1)	125 (50.6)	143 (57.9)
中の上	44 (18.7)	35 (14.9)	52 (21.1)	44 (17.8)
上	2 (0.9)	3 (1.3)	3 (1.2)	2 (0.8)
無応答	•	•	3 (1.2)	•
家族形態				
核家族	191 (81.3)		210 (85.0)	
直系家族	39 (16.6)		33 (13.4)	
その他	5 (2.1)		4 (1.6)	
合 計	235 (100.0)		247 (100.0)	

象となったのは、韓国では470部、日本では494部であった。表1は、回答者の一般的属性を示している。

まず、年齢から見ると、両国の夫婦ともに40代前半がモードになっている。平均年齢は、韓国の夫が約44歳、

妻が40歳で、日本の夫が43歳、妻が41歳で、両国の対象者の年齢の分布はほとんど類似していると言える。

学歴においては、日韓両国とも全体的に高卒がモードになっているが、韓国の妻の場合は、中卒と高卒が同じくらいで、一番多い。平均教育年数は、韓国の夫が約11年、妻が10年で、日本の夫が14年、妻が13年であり、日本の対象者の学歴が韓国の場合よりも高い。

職業の形態においては、韓国の夫の場合は、完全雇用職(FULL TIME)が36.2%と一番多いが、自営業も31.1%と結構存在する。それに比べて、日本の夫の場合は、完全雇用職が83.0%で、対象者のほとんどを占めている。また、韓国の妻の場合は55.7%が専業主婦であるが、日本の場合は37.2%が専業主婦である。職業を持っている場合は、韓国の妻の中には内職・自由業が一番多いが、FULL TIMEと自営業(手伝い)も同じ水準を占めている。それに比べて、日本の妻の場合は、他の形態よりもパートタイムをしている割合が41.1%となっていて一番多い。

職業の種類においては、韓国の場合は夫婦ともに自営業が一番多く、日本の場合は、夫は管理職か、妻は非熟練職が一番多い。

主観的に評価した生活水準は、両国の夫婦ともに「中の中である」と答えた割合が一番多い。

家族の形態においての核家族の割合は、韓国(81.3%)より日本の方(85.0%)がやや多い。

(2) 調査方法・時期

調査方法としては、留置法で、夫婦それぞれ別々の調査表に回答してもらった。調査の時期としては、韓国の場合は、1992年4月3日から4月16日までで、日本の場合は、1992年5月8日から6月15日まで行われた。

(3) 測定領域と測定方法

①家事分担の認知度

家事労働10項目(食事の用意、食料品・日用品の買物、皿洗い、洗濯、部屋の掃除、ゴミの処理、子供のしつけ、子供の世話、家計・貯蓄管理、衣服管理)の領域における夫と妻の分担の認知程度を、1)もっぱら妻、2)たいてい妻、時には夫も、3)妻と夫が同じ程度に、4)たいてい夫、時には妻も、5)もっぱら夫、の5段階に分け、「もっぱら妻」の順序で+2,+1,0,-1,-2の得点配分を行う。分担認知得点が0に近づく程共有度が高く、+2に近づく程妻側に、-2に近づく程夫側に偏ることになる。

②意思決定の認知度

意思決定10項目(家・アパートなどの選択、電化製品の購入の決定、子供の進路、妻自身の買物5万円程度、夫自身の買物5万円程度、子供数などの家族計画、夫の小遣い、休日・休暇などの計画、妻の就労の決定、生命保険などの加入)に対し、夫と妻のどちらか最終的に決定するかの認知程度を、1)妻だけで決める、2)夫に相談して妻が決める、3)夫と妻が相談して決める、4)妻に相談して夫が決める、5)夫だけで決める、の5段階に分け、「妻だけで決める」の順序で+2,+1,0,-1,-2の認知得点配分を行う。平均得点が0に近づく程共同的意思決定で、+2に近づく程妻一方的意思決定、-2に近づく程夫一方的意思決定を意味する。

3. 結果および考察

1. 家事分担の認知度

(1) 夫と妻の認知差

家事分担度における夫と妻の間の認知差の程度か、家事の内容別に表2と表3に表れている。

まず、韓国の場合からみると(表2)、夫と妻の認知度が統計的に有意な水準で差を表している項目は、「部屋の掃除」「子供の世話」そして「衣服管理」の三つである。この三つの項目の認知得点はいずれも夫より妻の方が高い。すなわち、この三つの項目においては、妻は自分の家事遂行度が夫の認知より高いと、認知していることがわかる。夫もこれらの三つの項目においては、妻の遂行度が高いことを認知している。

日本の場合は表3が示すように、夫と妻の間の認知差を示す項目は、韓国とは違って、「食料品・日用品の買物」「皿洗い」そして「衣服管理」の三つである。この場合もいずれも夫の認知得点より妻の方が高く、夫婦ともに妻の遂行度が相対的に高いと思っている。

両国とも共通に夫婦間の認知差がある項目は「衣服管理」である。それは衣服に関して夫も管理面で関心を持っているが、妻の管理水準までは行っていない事を意味する。例えば、「衣服管理」の中でも、衣服の整理や保管、アイロンかけ、衣服の買物、そして衣服識別などの作業が考えられる。この場合、具体的な項目の内容と数によって夫と妻の遂行度が異なるゆえに、夫と妻の認知差が出てきたことも考えられる。

一方、家事分担の10項目の認知度の合計をみると、両国ともに夫の認知と妻の認知の間には差がある。なお、夫と妻の認知得点がいずれの国においても+2の方に近いことから、実際に家事のほとんどが妻によって行われていると想定できる。

(2) 認知度の日韓比較

表2 韓国の夫と妻による家事分担度の認知得点

	夫		妻		N	T-Value
	平均	S D	平均	S D		
食事の用意	1.866	.341	1.884	.347	232	.67
食料品・日用品の買物	1.732	.572	1.749	.565	231	.42
皿洗い	1.866	.354	1.862	.438	224	-.15
洗濯	1.812	.413	1.856	.388	229	1.72
部屋の掃除	1.427	.790	1.564	.643	218	2.43 *
ゴミの処理	1.140	1.059	1.228	1.067	215	1.32
子供のしつけ	0.711	.980	0.815	.974	232	1.44
子供の世話	0.940	.893	1.090	.869	233	2.14 *
家計・貯蓄管理	1.133	1.165	1.116	1.156	233	-.21
衣服管理	1.657	.690	1.755	.546	233	2.24 *
合 計	1.441	.366	1.507	.389	199	2.28 *

(* <.05)

表3 日本の夫と妻による家事分担度の認知得点

	夫		妻		N	T-Value
	平均	S D	平均	S D		
食事の用意	1.764	.455	1.806	.407	237	1.59
食料品・日用品の買物	1.506	.534	1.629	.534	237	3.29 ***
皿洗い	1.690	.565	1.746	.535	232	2.00 *
洗濯	1.860	.435	1.877	.441	235	.85
部屋の掃除	1.667	.628	1.718	.584	234	1.74
ゴミの処理	1.700	.626	1.755	.569	233	1.76
子供のしつけ	0.912	.788	0.866	.784	238	-.82
子供の世話	1.382	.663	1.424	.630	238	.86
家計・貯蓄管理	1.329	1.121	1.295	1.145	237	-.63
衣服管理	1.741	.635	1.862	.432	239	3.25 ***
合 計	1.555	.376	1.595	.354	224	1.99 *

(* <.05, *** <.001)

表4と表5は、家事分担に対する夫と妻の認知得点を韓国と日本の場合を比較したものである。両国の夫の間の認知度において有意な差がある項目は七つであり（表4）、そして両国の妻の間に有意な差がある項目も七つである（表5）。その中で、韓国の夫と妻の認知得点が日本の夫と妻より高い項目は「食事の用意」「食料品・日用品の買物」「皿洗い」であり、逆に日本の夫と妻の認知得点が韓国より高い項目は「部屋の掃除」「ゴミの処理」「子供の世話」である。

したがって、夫と妻の両者の認知度から推測出来ることは、「食事」と関連のある三つの項目については、日本の妻より韓国の妻の方がより家事分担率は高いが、「掃除や子供の世話」については、日本の妻の方が分担率が高いということである。言い替えれば、韓国の夫が

日本の夫より参加率が高い項目は、掃除や子供の世話であり、食事と関連のある項目については、日本の夫の方が参加率が高いことがわかる。それ以外に、両国の夫の間の認知差がある項目は「子供のしつけ」であり、妻の間の認知差がある項目は「衣服管理」である。

なお、家事分担に対する夫と妻の認知度から、次のような両国の特徴的な実際の家事分担度が推測できる。すなわち、韓国の場合、夫と妻の両者ともに得点が高い項目は「食事の用意」であり、得点が一番低い項目は「子供のしつけ」であることから、「食事の用意」は代表的な妻専担の領域で、「子供のしつけ」は妻側にややかたよった、共同参画の領域であることがわかる。日本の場合は、「子供のしつけ」夫婦間の分担のあり方は韓国の場合と変わりがないが、代表的な妻専担の領域は「洗濯」

表4 夫による夫婦間の家事分担度認知の日韓比較

	韓 国			日 本			T - Value
	平 均	S D	N	平 均	S D	N	
食事の用意	1.867	.340	233	1.764	.454	241	2.81 **
食料品・日常用品の買物	1.732	.572	231	1.504	.533	242	4.47 ***
皿洗い	1.869	.351	229	1.667	.611	240	4.42 ***
洗濯	1.813	.412	230	1.854	.439	239	-1.03
部屋の掃除	1.427	.788	225	1.649	.669	239	-3.26 ***
ゴミの処理	1.148	1.049	223	1.681	.666	241	-6.47 ***
子供のしつけ	.717	.981	233	.905	.812	242	-2.27 *
子供の世話	.932	.899	235	1.376	.666	242	-6.12 ***
家計・貯蓄管理	1.133	1.165	233	1.332	1.117	241	-1.90
衣服管理	1.658	.689	234	1.745	.630	243	-1.43
合 計	1.435	.368	212	1.546	.383	234	-3.12 **

(* <.05, ** <.01, *** <.001)

表5 妻による夫婦間の家事分担度認知の日韓比較

	韓 国			日 本			T - Value
	平 均	S D	N	平 均	S D	N	
食事の用意	1.885	.346	234	1.806	.407	242	2.28 *
食料品・日常用品の買物	1.730	.616	233	1.624	.557	242	1.96 *
皿洗い	1.864	.434	228	1.744	.541	238	2.65 **
洗濯	1.858	.385	232	1.880	.436	240	-.56
部屋の掃除	1.561	.641	221	1.722	.579	241	-2.84 **
ゴミの処理	1.203	1.097	222	1.760	.565	237	-6.77 ***
子供のしつけ	.816	.972	233	.864	.783	243	-.60
子供の世話	1.090	.869	233	1.424	.628	243	-4.79 ***
家計・貯蓄管理	1.106	1.170	235	1.296	1.140	243	-1.80
衣服管理	1.755	.546	233	1.864	.429	243	-2.41 *
合 計	1.503	.394	212	1.596	.352	231	-2.62 **

(* <.05, ** <.01, *** <.001)

である。一方、家事分担の10項目の認知得点の合計を見ると、夫と妻の認知得点のいずれも韓国より日本の方が高い。これは、結局、韓国の妻よりも日本の妻の方が家事の分担率が高いことを表している。

2. 意思決定の認知度

(1) 夫と妻の認知差

まず、韓国の夫と妻の意思決定度に対する認知差の程度を見ると、表6で示されているように意思決定の10項目の認知度の合計においては、夫の認知と妻の認知の間に統計的に有意な差を表していない。しかし、意思決定を領域別にみると、「電化製品の購入の決定」と「妻の就労の決定」の二つの項目で統計的に有意な差があった。その中で「電化製品の購入の決定」は夫の認知得点が高

く、「妻の就労の決定」は妻の認知得点が高い。つまり、「電化製品の購入の決定」については、妻は、自分自身の決定に依拠していると認知しているが、夫の方は、妻以上に妻の決定領域だと認知している。一方、「妻の就労の決定」については、夫と妻ともに妻自身が決定していると認知しているが夫よりも妻の方がもっと妻自身の決定度が高いと認知していることがわかる。

表7の日本の場合を見ると、夫と妻の間の認知差を示めている意思決定の項目は、「夫自身の買物」「休日・休暇の計画」そして「妻の就労の決定」の三つである。「夫自身の買物」の項目は、夫も妻も「夫の決定項目」と認知しているが、日本の夫は妻が思っている以上に自分自身の決定度が高いと認知している。しかし「休日、休暇」の決定に際しては夫は自分か決定するという認知傾

表6 韓国の夫と妻による意思決定度の認知得点

	夫		妻		N	T-Value
	平均	SD	平均	SD		
家、アパートなどの選択	.082	.742	.159	.686	233	1.54
電化製品の購入の決定	1.594	.698	1.472	.856	229	-2.15 *
子供の進路	.268	.698	.351	.696	228	1.55
妻自身の買物（5万円程度）	.760	.864	.778	.847	225	.27
夫自身の買物（5万円程度）	-.307	1.114	-.267	1.146	225	.45
子供数などの家族計画	.208	.758	.279	.820	226	1.05
夫の小遣い	-.478	1.416	-.614	.414	228	-1.40
休日、休暇の計画	-.167	.914	-.123	.887	228	.60
妻の就労の決定	.295	1.025	.456	.871	217	2.01 *
生命保険などの加入	.174	.942	.315	.937	219	1.93
合計	.252	.421	.272	.401	187	.56

(* <.05)

表7 日本の夫と妻による意思決定度の認知得点

	夫		妻		N	T-Value
	平均	SD	平均	SD		
家、アパートなどの選択	-.131	.684	-.078	.586	244	1.22
電化製品の購入の決定	.152	.825	.221	.754	244	1.40
子供の進路	.118	.561	.118	.521	229	.00
妻自身の買物（5万円程度）	1.103	.783	1.165	.764	243	1.13
夫自身の買物（5万円程度）	-.844	1.025	-.671	1.142	243	2.13 *
子供数などの家族計画	.046	.494	.046	.459	241	.00
夫の小遣い	-.286	1.171	-.295	1.103	241	-.12
休日、休暇の計画	-.194	.830	.012	.791	242	3.22 ***
妻の就労の決定	.511	.844	.686	.787	239	2.68 **
生命保険などの加入	-.041	1.001	.021	1.060	244	.87
合計	.049	.436	.126	.378	216	2.82 **

(* <.05, ** <.01, *** <.001)

向を示し、妻は共同で決定するという認知傾向を示している。10項目を全部合わせた全体的な意思決定の認知度においては、統計的に有意な水準で夫より妻の認知得点が高くなっている。

両国ともに夫婦間の認知差があった項目は「妻の就労の決定」であり、いずれも妻の方の認知得点が高い。つまり、夫も妻も妻の就労の問題は妻の決定寄与度が大きいと思っているが、妻は夫以上に自分の決定寄与度が大きいと思っていることがわかる。

(2) 認知度の日韓比較

表8は、意思決定に対する夫の認知得点を、韓国と日本の場合を比較したものである。両国の夫の間の認知度において有意な差がある項目は八つである。その中で、「家、アパートなどの選択」においては韓国の夫は「妻

と共同で」と認知しているのに対して、日本の夫は「自分自身で」という傾向の反応を示している。「電化製品の購入の決定」「子供の進路」「妻自身の買物」「子供数などの家族計画」「妻の就労」は両国ともに共同と妻側にかたよった決定がなされている。「夫自身の買物」については、両国ともに夫側にかたよった意思決定がなされており、そのかたよりは日本の夫の方が大きくなっている。「生命保険の加入」については、日本の夫は「共同」で反応した、韓国の夫も「共同」で意思決定をしている。

両国の妻の「意思決定」に関する認知得点を比較してみると（表9）、有意な差がある項目は九つである。韓国の妻の認知得点の高い項目は「家、アパートなどの選択」「電化製品の購入の決定」「子供の進路」「夫自身の

表8 夫による夫婦間の意思決定度認知の日韓比較

	韓 国			日 本			T - Value
	平 均	S D	N	平 均	S D	N	
家、アパートなどの選択	.082	.724	233	-.135	.685	245	3.36 ***
電化製品の購入の決定	1.589	.704	231	.151	.823	245	20.52 ***
子供の進路	.271	.698	229	.110	.558	236	2.73 **
妻自身の買物（5万円程度）	.759	.860	228	1.110	.784	245	-4.65 ***
夫自身の買物（5万円程度）	-.294	1.115	231	-.841	1.030	245	5.56 ***
子供数などの家族計画	.210	.755	229	.045	.492	243	2.78 **
夫の小遣い	-.485	1.416	229	-.293	1.174	242	-1.59
休日、休暇の計画	-.161	.913	230	-.193	.826	244	.40
妻の就労の決定	.290	1.017	221	.506	.842	241	-2.48 *
生命保険などの加入	.174	.933	224	-.033	1.008	245	2.30 *
合 計	.253	.426	204	.052	.441	229	4.79 ***

(* <.05, ** <.01, *** <.001)

表9 妻による夫婦間の意思決定度認知の日韓比較

	韓 国			日 本			T - Value
	平 均	S D	N	平 均	S D	N	
家、アパートなどの選択	.162	.685	235	-.077	.584	246	4.11 ***
電化製品の購入の決定	1.459	.861	233	.220	.751	246	16.76 ***
子供の進路	.359	.699	234	.104	.519	240	4.50 ***
妻自身の買物（5万円程度）	.801	.852	231	1.163	.767	245	-4.88 ***
夫自身の買物（5万円程度）	-.259	1.149	228	-.669	1.138	245	3.90 ***
子供数などの家族計画	.289	.821	232	.045	.456	244	3.98 ***
夫の小遣い	-.624	1.416	234	-.317	1.109	246	-2.63 **
休日、休暇の計画	-.116	.895	233	.008	.789	245	-1.61
妻の就労の決定	.459	.876	229	.694	.789	245	-3.08 **
生命保険などの加入	.319	.936	226	.020	1.055	246	3.24 ***
合 計	.273	.399	210	.114	.395	233	4.20 ***

(** <.01, *** <.001)

買物」「子供数などの家族計画」「生命保険の加入」であり、日本の妻の認知得点の高い項目は「妻自身の買物」「夫の小遣い」「妻の就労決定」である。

さらに、意思決定に対する夫と妻の認知度から実際の意思決定構造を推測して見よう。まず、韓国の場合、夫と妻の両者ともに認知得点が最も高い項目は、「電化製品の購入の決定」であり、得点が一番低い項目は「夫の小遣い」であることから、「電化製品の購入」は最も妻の決定に任せられている領域であり、「夫の小遣い」は得点が低いと言っても-.624として-2よりは0に近いので、最も夫の参加度が高い夫婦共同的決定領域であると見られる。日本の場合は、韓国とは違って、「妻自身の買物」が妻の決定領域で、「夫自身の買物」は最も夫の決定に委ねられていると考えられる。その意味では日

本の夫婦の意思決定領域には配偶者が相互に干渉しない「自律型」の決定構造が存在すると言えるだろう。前述したように、意思決定の10項目の認知得点の合計を見ると、夫と妻の認知得点のいずれも日本より韓国の方が高い。これは、結局、日本の妻よりも韓国の妻の方が意思決定に参加する割合が高いことを表している。しかし、全体的には、両国の夫婦ともに認知得点が0に近いことから、実際に夫婦共同的な意思決定が成されていることがわかる。

4. 要約と結論

本調査研究では、韓国と日本の夫婦関係のあり方を明らかにするための一環として、夫婦の家事分担と意思決定に対する夫と妻の認知差について調べ、それを韓国と

日本の場合を比較してきた。

その結果を要約すると、まず、家事分担の全体的な認知度については、両国ともに夫より妻の方の認知得点が高かった。内容別にみると、韓国の場合は「部屋の掃除」「子供の世話」「衣服管理」の項目で、日本の場合は「食料品・日常用品の買物」「皿洗い」「衣服管理」の項目で統計的に有意な差があった。両国間を比較では、全体的には韓国より日本の夫婦の方が家事遂行の認知得点が高い。しかし、内容別に見ると、「食事の用意」「食料品・日常用品の買物」「皿洗い」においては韓国の夫と妻の認知得点が高く、「部屋の掃除」「ゴミの処理」「子供の世話」においては日本の方が高かった。

次に、意思決定の全体的な認知度については、韓国の夫と妻の間には統計的に有意な差がなかったが、内容別には「電化製品の購入の決定」については夫の方が、「妻の就労の決定」については妻の方の決定が高かった。日本の場合は、全体的な意思決定のパターンは妻の方の認知得点が高く、特に、「夫自身の買物」「休日・休暇の計画」「妻の就労」において有意な差があった。両国間を比較してみると、全体的には日本より韓国において夫婦いずれの意思決定認知得点も高かった。内容別に見ると、「家、アパートなどの選択」「電化製品の購入の決定」「子供の進路」「夫自身の買物」「子供数などの家族計画」「生命保険などの加入」においては韓国の夫と妻の方の認知得点が高く、「妻自身の買物」「妻の就労の決定」においては日本の方が高かった。

以上の結果から、夫婦の家事分担と意思決定に対する夫と妻の間には両国ともに認知のズレがあった。しかし、この認知のズレを夫婦が不満に思っているか、許容しているかどうかは今回のデータからだけでは解明出来ない。認知というのはその人の主観的な態度の次元であるので、結局、夫からみた家事分担や意思決定のあり方と妻からみた家事分担や意思決定のあり方が違うと言うことは、客観的な家事として存在する結婚事象が夫婦の主観によって異なったかたちで経験されていると見られる。このような夫婦間の認知のズレがどこから来るのかについては、今後の課題として置こう。また、今度の調査結果から、日本の妻は韓国の妻より家事分担度は高い反面、意思決定度は低い、という注目すべき事実が明らかになった。

一方、本研究では、家事分担度と意思決定度を設定している。しかし、意思決定権と勢力関係にはどんな関連をもっているかについても実際に調べる必要があるだろう。

参考文献

- 1) Choi, Kyu-Ryun, 「夫婦関係」『家政学研究の最新情報Ⅲ—児童学・家族学』大韓家政学会編, 教文社, 1990, 183-239.
- 2) Kim, Deuk-Sung, 「結婚満足度尺度に関する研究—Kansas Marital Satisfaction Scale」『韓国家庭管理学会誌』7(2), 1989, 85-94.
- 3) Kim, Myung-Ja, 「家族関係に対する夫婦の価値意識と結婚満足度に関する研究」淑明女子大学アジア女性研究所, 『アジア女性研究』24, 1985, 139-159.
- 4) Lloyd H. Rogler & Mary E. Procidano, "Egalitarian Spouse Relations and Wives' Marital Satisfaction in Intergenerationally Linked Puerto Rican Families." *Journal of Marriage and the Family* 51, 1989, 37-39.
- 5) 長津美代子, 「夫婦間平等の程度測定——ホワイトカラー夫婦とブルーカラー夫婦の比較——」『家族研究年報』No.3, 1977, 11-25.
- 6) Scanzoni, J., "Sex Roles, Women's Work and Marital Conflict: A Study of Family Change, Lexington Books, 1978.
- 7) Stephen A. Anderson, Candyce S. Russell & Walter R. S. Chumm, "Perceived Marital Quality and Family Life-Cycle Categories: A Further Analysis." *Journal of Marriage and the Family* 45, 1983, 127-139.
- 8) 渡辺 深, 「夫婦間の勢力関係についての試論——勢力—依存理論とネットワーク分析の適用——」『家族研究年報』No.6, 1980, 29-41.

(平成4年10月12日受理)

Summary

The purpose of this paper was to investigate the difference between husband's and wife's perceptions of their housework and decision making, and to compare them between Japan and Korea.

The data for this study was obtained from a survey of 247 Japanese couples who were residing in Osaka and 235 Korean couples in Deagu, 1992.

The major findings of this study can be summarized as follows:

1. In Korea, the perceptions between husband and wife are incongruent on shares of houseworks of cleaning room, clothing management, and child care. And in Japan, meal prepare, shopping for food stuff, and washing dishes are housework areas on which spouse's perceptions are incongruent.
2. As for the decision making, Korean spouse's perceptions are incongruent on the decision making of purchasing new electronic goods, and wife's work. And decision making of the purchase for husband's own, planning holiday and vacation, and wife's work is of incongruency in Japanese spouse's perception.
3. While Japanese wives are more performing housework than Korean wives, Korean wives are more decision making in family life than Japanese wives.